

# チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 133 2026年2月27日発行

## チェルノブイリ原発事故から40年 講演会「チェルノブイリと福島が私たちに問うもの」

2026年5月23日（土）場所：明治学院大学（東京都港区）

(p. 2)



### 子どもたちのクリスマス会（2025年12月）

左上：ウクライナの子どもたち（p. 6～7）

右上・下右2枚：ベラルーシの子どもたち（p. 8）



「2026年チェルノブイリ救援カレンダー」を受け取った  
ナロジチ・リツエイの子どもたち（p. 10）



\*\*\* 目次 \*\*\*

p.2	チェルノブイリ原発事故から40年 講演会
p.3	2026年支援計画／里親募集
p.4～5	ウクライナ「内分泌研究所」
p.6～8	子どもたちのクリスマス会

p.9	ウクライナからの便り
p.10	ナロジチの子どもたち
p.11	チェルノブイリの歌声
p.12	2025年度決算報告書
p.13	募金・救援状況
p.14	事務局から

# チェルノブイリ原発事故から40年 講演会「チェルノブイリと福島が私たちに問うもの」

5月23日(土) 開場 13:00 開演 13:30~16:30 明治学院大学白金校舎 大教室

1986年4月26日、当時のソ連邦ウクライナ共和国のチェルノブイリ原子力発電所が大爆発し、莫大な放射性物質が飛散しました。欧州の40%が汚染され、事故による過剰死は16000人(世界保健機関WHO)から98万人(ネステレンコ、ヤブロコフらの調査)の間と推定されています。

特にベラルーシ、ウクライナ、およびロシア西部地域の汚染は深刻でした。高線量の外部被曝と汚染された作物や牛乳の摂取などによる内部被曝により罹病率が高まり、とりわけ小児甲状腺がん、新生児先天異常をはじめ様々な病気が増えました。しかし国際原子力機関IAEAは当初事故の影響と認めず、対策の遅れで亡くなった子どもも多くいました。現地の医師の必死の訴えでようやく95年にIAEAも甲状腺がんのみ放射能の影響と認めたのです。その子どもたちの治療は、日本からボランティアで駆け付けた菅谷昭医師をはじめとした日本の医師と現地の医師たちとの協力により行われました。

私たちはこの大事故から何を学ぶべきでしょうか。ウクライナの科学者シチェルバクはこう記しました。「巨大な技術システムが、文明に対して大きな脅威となり、人間にコントロールできなくなる可能性も増し続けている。…この事故の特徴は、何百万の住民、なかでも子どもたちが影響を受けたこと、長期にわたって土壌・水・大気が放射性物質により汚染されたこと、そして自然環境と生態系の不可逆的な変化である。チェルノブイリ—それは、決して忘れられてはならない、人類への永遠の教訓である。」

しかしその警告に耳を傾けなかった日本で2011年に福島第一原子力発電所の事故が起きてしまいました。そして事故当時子どもだった302名もが既に甲状腺がんの手術を受けていますが、政府

も東電も原発事故が原因ではないと言いはり、さらに今、事故の収束の見通しもない中で次々に原発を再稼働させています。

チェルノブイリ事故から40年、福島事故から15年たちますが、大量に放出されたセシウム137(半減期30年)の放射能はチェルノブイリでもまだ4割が、福島では7割が残っています。今後100年以上、私たちはその危険性と向き合っていくかねばならず、忘却は許されません。

そこで、数十年来原発の問題を訴え続けてきた小出裕章さん(元京都大学原子炉実験所助教)、ベラルーシで甲状腺の治療を行った医師の菅谷昭さん(前松本市長)、「311甲状腺がん裁判弁護団」の柳原敏夫さん(市民が育てるチェルノブイリ法日本版の会)、「チェルノブイリ子ども基金」事務局長 佐々木真理の話を通して問題の深刻さを理解し、今なすべきことを考えたいと思います。

(小寺隆幸 チェルノブイリ子ども基金代表理事)

【内容】①小出裕章「チェルノブイリ事故と福島が私たちに問うもの」②菅谷昭「ベラルーシでの甲状腺がん治療の経験から福島の今を考える」③柳原敏夫「311子ども甲状腺がん裁判で問われていること」④佐々木真理(チェルノブイリ子ども基金)「現在も続く救援活動について」⑤パネルディスカッション  
主催:チェルノブイリ子ども基金 共催:明治学院大学国際平和研究所 協賛:未来の福島こども基金、市民が育てるチェルノブイリ法日本版の会  
会場:明治学院大学(東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線白金高輪駅または白金台駅下車 徒歩7分 使用教室は5月初めに子ども基金HP <https://ccfj.la.coocan.jp/>に掲載)  
資料代800円 定員150名当日先着順(事前申し込み不要) 問い合わせ先:チェルノブイリ子ども基金 [chernobyl1986@jcom.zaq.ne.jp](mailto:chernobyl1986@jcom.zaq.ne.jp)

## ★ 2026 年の支援計画 ★



## 里親募集

みなさまのご支援のおかげで 2025 年もチェルノブイリの子どもたち、被災者たちへの救援活動を行うことができました（詳細は p. 12 の決算報告に記載）。ご支援に心よりお礼を申し上げます。

ベラルーシの保養施設「ナデジダ（希望）」は国の管理下におかれるようになりましたが、職員体制はこれまで通りで、国によるチェルノブイリ汚染地の子どもの保養や外国 NGO の保養プロジェクトも変わらず継続されています。子ども基金も昨年夏、病気の子どもたちの保養プロジェクトを行うことができました。しかし「チェルノブイリ被害者家族の保養」は資金不足のために、開催を見送らざるを得ませんでした。

ウクライナの子どもたちの保養プロジェクトは、子どもたちの安全を最優先に進めてまいります。ウクライナ緊急支援を継続します。

これからもご支援いただけますようどうぞよろしく願いいたします。

子ども基金では、甲状腺手術後の困窮家庭の子どもを対象に 1998 年に里親制度を開始しました。日本の里親の方が一人の子どもを 2 年間、月 50 ドル相当の支援をしていただくものです。遠い日本からの支援は、医療費や生活費を賄うというだけでなく、子どもとその家族の心の支えにもなっています。これまでに 359 人が、また現在は 39 人の子どもが里親からの支援を受けています。

円安の影響により、里親のみなさまのご負担が大きくなってしまっており、事務局としても心苦しく思っております。しかし現地団体から届く状況を知ると、どの子どもにも支援が必要だと感じます。里親が決まらない子どもたちは、基金の募金の中から支援してきましたが、募金額の減少もあり、支援の継続が危ぶまれています。現在、下記のベラルーシの子どもの里親を募集しています。ご関心をお持ちの方は事務局へご連絡ください。詳しい資料をお送りします。

### <ベラルーシ>

- 子ども健康回復センター「ナデジダ（希望）」「腫瘍病の子どものための保養」
- 慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」この団体を通じた里子の支援。スタッフ給料と事務所維持費の一部。

### <ウクライナ>

- 慈善団体「チェルノブイリの子どもたちの生存」この団体を通じた里子の支援。スタッフ給料と事務所維持費の一部。
- 「汚染地域に住む病気の子どものための保養」：ウクライナ西部の保養施設で実施。
- 「内分泌代謝研究所」甲状腺手術後の患者への医薬品代。
- ウクライナ緊急支援 戦争により厳しい状況にあるチェルノブイリ被害者のための生活費、医薬品代、医療費。

アンナ（14 歳）左腎臓の腫瘍。2014 年に手術を受けた。年に 1 度、定期検査を受けている。障害児に認定されている。父親（85 年生まれ）と二人暮らし。母親（86 年生まれ）は 2009 年に心不全のため亡くなった。父親は子どもの頃に甲状腺がんの手術を受けた。甲状腺ホルモン剤を服用している。

### <里親制度の補足>

- 3 年目以降は子どもの状況をお伝えし、その後の支援の継続・終了を決めていただきます。
- 初めに子ども基金が現地団体へまとめて送金します。送金時のレートで計算した円金額を里親のみなさまにご支援いただきます。
- ベラルーシは経済制裁の影響により日本からドルの送金ができなくなり、現在はドイツの NGO 団体の協力を得てユーロで送金しています。2026 年 2 月 3 日レートの場合：50 ドル≒42.36 ユーロ≒7,780 円（ひと月の支援金額）。



里親宛、子ども基金宛の新年の祝いカードを手にする子どもたち

## ★ ウクライナ 内分泌研究所 医薬品購入費用ご支援のお願い ★

チェルノブイリ事故から数年後、被災地では子どもの甲状腺がんが多発しました。子ども基金は甲状腺の手術を受けた子どもたちへの支援として、放射能汚染の心配の少ない地域での保養や医薬品の支援を開始し、現在も継続しています。

キーウ（キエフ）市内にあるウクライナ内分泌研究所の放射線科は、甲状腺の病気の患者の診断・治療を行っています。子ども基金は長年にわたり、甲状腺ホルモン剤などの医薬品や医療機器の支援を行っています。甲状腺ホルモン剤は手術後の患者にとって生涯服用しなければならない大切な薬です。事故当時子どもであった世代はいま 40 代～50 代前半という年齢になっています。戦争の影響により厳しい状況の中で暮らしている甲状腺の患者たちに今後も支援を続けられるよう、みなさまのご協力をお願いいたします。

子ども基金が 2025 年 12 月末に送金した支援金により、甲状腺ホルモン剤が購入されました。NGO 「チェルノブイリの子どもたちの生存」代表ザクレフスキーさんからの報告です。

### 【2025 年 12 月 4 日】

内分泌研究所では通常通り患者の診察を行っています。12 月 18 日の創立 60 周年の準備をしているところです。現在、ウクライナ製の甲状腺ホルモン剤「シントレクス」の在庫が 5 箱あります。この薬は国の予算で購入され、患者に無料で提供されます。しかし数量が圧倒的に足りません。またこれまで子ども基金の支援で購入してきたドイツ製の甲状腺ホルモン剤「エウチロクス」の方が高品質だということです。

### 【2026 年 1 月 22 日】

厳しい寒さ、長期間の停電、暖房の停止、発電機の燃料不足のため、研究所はすべての患者をさまざまな医療機関に分散させることを余儀なくされました。新規患者の受け入れと手術は 2 週間中止されました。さらに暖房システムの損傷とそれに伴う問題のため、医療スタッフと管理スタッフ全員を本館から近隣の棟や施設に無期限で避難させることを決定しました。トロンコ所長の部屋も本館から放射線科のある建物内に、一時的に移りました。

### 【2月3日】

昨日、医薬品供給に関する契約書をトロンコ所長と結びました。また、休止していた患者の受け入れを再開したと聞きました。しかし停電が頻繁に起き

るため、内分泌研究所では 2 台の発電機を常時稼働しています。これは多くの燃料を消費するため彼らにとって大きな経済的負担になっていると話していました。一部の事務職員たちは、医療棟にある別の部屋に移動して働いていました。そこは患者の医療処置が行われる部屋の中の狭い一角でした。

### 【2月10日】

昨日、内分泌研究所に医薬品が届きました。書類のコピーと写真を送ります。写真は、放射線科の主任看護師オクサーナ・イワシエンコさんです。現在、毎週 2 人～7 人の患者を受け入れています。しかし発電機から供給される電力が極めて不足しているため、患者を診察する際の照明が足りず、これが最大の問題だということでした。



## ～ 内分泌研究所 トロンコ所長からの手紙 ～

この国にとって困難な時にご支援いただき誠にありがとうございます。

甲状腺疾患の手術を受けた患者に必要なホルモン剤「エウチロクス」の購入資金をご支援いただき、心よりお礼を申し上げます。これは患者が生きていくために毎日服用しなければならない薬です。ご支援いただいた資金をもとに、さまざまな用量（25  $\mu\text{g}$ 、50  $\mu\text{g}$ 、75  $\mu\text{g}$ 、100  $\mu\text{g}$ ）のエウチロクスを1465箱購入しました。用量はそれぞれ患者ごとに異なります。みなさまのおかげで、ウクライナの各地から甲状腺がんの治療、診断、相談のために来院する患者はエウチロクスを手にすることができるようになりました。

私たちの協力関係をとっても貴重なものと感じており、今後もさらに友好関係が強まることを願っています。

研究所所長 M.D. トロンコ  
(2026年2月17日受信)

●医薬品の他、子ども基金では内分泌研究所にこれまで次のような支援を行ってきました。



超音波診断機  
2008年



放射線測定器（放射線治療を行う部屋で使用）  
左：2012年 右：2019年



心電図フォルダー  
2020年



今回、甲状腺ホルモン剤エウチロクスを受け取った患者の一人、1987年生まれ  
のワレンチーナさん。チェルノブイリ事  
故が起きたときは生後1歳1か月でした。  
ヴィーンヌィツァ州コザティン地区の村  
で暮らしています。彼女は内分泌研究所  
で長年治療を受けています。

患者に渡される薬の箱には子ども基金  
のシールが貼られます。

### ウクライナ

#### 【オヴルチ子ども芸術アカデミー】

ジトーミル州オヴルチ

<NGO「子どもたちの生存」ザクレフスキーさんからのメール>

現在、ウクライナ全土で再び空襲警報が発令されています。キーウ（キエフ）では防空システムが稼働中です。爆発音が聞こえます。ウクライナ北部地域への無人機攻撃が頻発していることを受け、子どもアカデミーの祝賀会は予定していた12月24日から26日に延期されました。しかし26日の朝、オヴルチでも空襲警報が発令されたため、昼間ではなく夕方近くに行われました。（2025年12月27日）

<クリモヴィチ校長から届いた手紙>

子ども芸術アカデミーのクリスマス・新年会、及び今年度の学期終業式に参加した子どもたちへのプレゼントをありがとうございます。今学期には以前より3割強多くの子どもが参加するようになり、さらに「ウクライナの民族人形」という新たなクラスが始まったことは喜ばしいことでした。

こちらでは空襲警報が頻繁に鳴っています。初めに開催を予定していた24日も警報のため延期となりました。しかし運良く26日の午後

3時頃に空襲警報が解除され、会を開催することができました。これには生徒たちも、そして教師たちも大変満足でした。

今学期の授業の中で創造的な作品を作ったり、絵を描いたり、またさまざまなコンテストや展覧会で優勝した子どもたちは、私たち学校からの表彰状を受け取りました。そして最後に生徒全員が子ども基金からのプレゼントを受け取りました。今回は、遠い国からプレゼントを運んできた「天使」が子どもたちにプレゼントを渡す、というシナリオを考えました。その際、日本の子ども基金が長年に亘りウクライナの子どもたちを助けてくれているという話しをしました。

今、このようなプレゼントをもらえることが大きな喜びとなる子どもたちが大勢います。あらゆる物価が高くなり、親が仕事を失うなど、生活は厳しくなっています。また前線から家族でこの町に避難している子どももいます。このような多くの子どもたちにとって、これが現状における唯一のプレゼントなのです。

こうした状況にも関わらず、生徒たちは11月に行われた地区の蕁絵（p.7左下の写真：乾燥させ彩色した蕁を貼り合わせて作る模様や絵）と木工作品のコンクールに参加しました。その中で4人の生徒が優秀作品に選ばれまし



た。それらの作品は、来年の夏にキーウ市で開催される全ウクライナ大会にジトーミル州の代表として出展されます。他に、地元の歴史博物館で生徒たちのガラス絵の展覧会が開催されました。そこにはたくさんの生徒たちや住民、町を訪れたお客さんたちが足を運びました。また、ウクライナ兵士への援助品を運んできた外国人ボランティアの人たちを校内にある「オヴルチ・藁芸術美術館」に案内しています。そこでは子どもたちが作ったさまざまな作品が展示されています。

去年私は心臓の難しい手術を受け、昨冬はずっと入院していました。体調がなかなか元に戻らず、職場に戻ったのは今年の春になってからでした。もう引退して年金生活に入ろうかと思いましたが、子どもや親たちから続けてほしいと懇願され、仕事を続けることになりました。というわけで、あまり無理はできませんが、少しずつ体を慣らしながら働いています。今は新しいウクライナの教会のために、アイコンの絵を描き始めています。夏ごろまでには完成できるのではないかと思います。

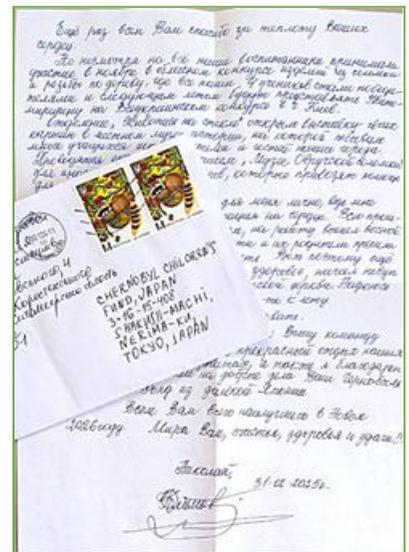
最後にもう一度、子どもたちへのプレゼント、そして夏のカルパチャでの保養にお礼を申し上げます。私たちがチェルノブイリ子ども基金からの支援をいただいていることを、神さまに感謝します。

みなさんにとって2026年が素晴らしい1年でありますことを心よりお祈りします。平和、幸福、ご健康とご成功をお祈りします。

クリモヴィチ・ニコライ  
2025年12月31日



ツリーの前に置かれたプレゼントの箱に「チェルノブイリ子ども基金」のロゴマークのシールが貼られた。



クリモヴィチ校長から届いた手書きの手紙



★この学校の子どもの作品は「2026年チェルノブイリ救援カレンダー」に使われています。左はカレンダー2月の頁の写真。

## ベラルーシ

### 【NGO 困難の中の子どもたちへ希望を】

ゴメリ市

小児がんなどの病気の子どもたちを会員にもつベラルーシの NGO 「困難の中の子どもたちへ希望を」からクリスマス会の報告が届きました。NGO のオフィスはゴメリ市内の病院の一室を間借りしており、この会は病院内の別の部屋を借りて行われました。昨年夏の保養プロジェクトに参加した子どもや、日本の里親から支援を受けている子どもたちが集いました。

代表ポホモワさん「私たち団体スタッフと親たちが協力して準備を進めました。子どもたちはお菓子のセット、果物、ジュースのプレゼントを受け取りました。保養に参加した子どもたちは再会を喜び、小さな子どもたちと一緒に歌やダンスを楽しみました。私はいつも子どもや親たちに、チェルノブイリ子ども基金がどのような支援をしているかを話しています。私たちはみな、日本のみなさんのご支援にとっても感謝しています」

当日、この会に参加できなかった子どもたちには自宅にプレゼントが届けられました。ポホモワさんは、自身の娘が甲状腺がんの手術を受けたことをきっかけに、団体を設立しました。2012 年 4 月には子ども基金の招待により来日し、娘のオリガさんとともに日本の聴衆に向けてそれぞれの経験を話しました。自身も様々な病気を抱えながら、孫世代に当たる子どもたちの支援を今も続けています。



←右端がポホモワさん。隣は会員の子どもの母親、左の 2 人の女性は団体のスタッフ。

## ウクライナからの便り

NGO「チェルノブイリの子どもたちの生存」代表ザクレフスキーさんから届いたメールの一部を紹介します。私たちが支援している子どもたちが暮らしているオヴルチとナロジチ、自身の自宅と事務所のあるキーウ(キエフ)の様子を知らせてくれています。

\*\*\*\*\*

【2026年1月12日】

### ◆オヴルチ

「子ども芸術アカデミー」も含め、オヴルチのすべての学校は1週間の休校を余儀なくされました。これは気温がマイナス20度まで下がったことと、雪のために道路が通行止めとなり、送迎用のスクールバスが運行できないためです。

### ◆ナロジチ

昨年12月末は空襲警報が頻発していたため、ナロジチ・リツエイでは生徒のための新年会を開催できませんでした。これらのドローンは今もナロジチとオヴルチの上空を絶えず飛行しています。

### ◆キーウ

今年になってすでに2度のミサイル攻撃とドローン攻撃を受けています。気温がマイナス15度~17度まで下がっている最中の1月9日、火力発電所、ボイラー室、住宅が特に激しく攻撃されました。空爆の目的はエネルギー施設をさらに破壊することでした。その結果、長時間にわたる緊急停電が頻繁に発生し、暖房と温水供給が中断されました。時には数日間(アパートやオフィスに電気が通っていたにもかかわらず)供給が途絶えることもありました。トロリーバスや路面電車などの交通機関も運行停止となりました。地下鉄のダイヤも乱れ、一部の地域では長期間運休となりました。しかし幸いなことに、店舗、ショッピングセンターは営業を続け、オフィスビル、公共施設も機能しています。停電中は発電機の騒音が街中に響き渡っています。

【1月22日】

今日キーウはある種の記念日を迎えました。戒厳令下において2000回目の空襲警報が鳴り響きました。さらにエネルギー相は、今日がウクライナの電力システムにとって最も厳しい一日であったと述べました。キーウ市、キーウ・ドニプロペトロウシク両州の状況は最も深刻でした。キーウの気温は年初

からマイナス12度~マイナス19度の間で変動しています。私が住んでいる右岸地区では、1月9日~16日の間が最も厳しい寒さでした。1月に入ってから部屋の中はいつもプラス12度前後でした。我が家の猫たちはこの寒さで相当つらい思いをしています。しかしオフィスはもっと寒かったです。左岸地区の状況はさらに深刻で、電気、暖房、水などの供給に問題が生じていました。お湯については言うまでもなく、私の住んでいる地域でも同様に問題がありますが、オフィスではそもそもお湯が出ることは全くありませんでした。市長によれば、1月にはさらに60万人の住民が町を離れたということです。

【2月1日】

土曜日(1/31)の午後、地下鉄構内の電気が突然消えました。私が利用している地下鉄の駅は比較的浅い位置にあるため、すぐに外に出ることができました。しかし他の多くの駅では、乗客は停止している長いエスカレーターを上って地上に出なければなりませんでしたこの停電の影響を受けたのはキーウの地下鉄だけではなく、ウクライナのほぼ全域で電気と水道が止まったことを、後のニュースで知りました。停電から3~4時間後には、町や村々で徐々に復旧し始めました。地下鉄の運行も再開しました。

キーウにも厳しい寒さが戻ってきました。夜間の気温はマイナス17度に達しました。予報ではさらに気温が下がるということですが、日中の陽ざしはもう春のようです。室内の寒さはなんとか耐えられる状態です。1月前半の頃と比べると停電の頻度は減っています。暖房も多少あります。お湯は出ませんが、停電時以外は水が出ます。我が家のネコが暖を取れるように、やかんで温めたお湯をペットボトルに入れて使っています。ちなみにキーウの左岸地区の状況は、ここ右岸よりもはるかに厳しい状況が続いています。

【2月10日】

キーウの中央郵便局から夏の保養プロジェクトの書類を送りました。市内にはまだ雪が多く残っていて、気温はマイナス18度まで下がることもしばしばですが、太陽の暖かさに春の兆しを感じます。ですから、敵は寒さで我々を降伏させることはできないでしょう。

【ナロジチ・リツェイ】

ジトーミル州ナロジチ

(「リツェイ」は、特に専門分野の科目に重点を置いて履修するタイプの義務教育課程の学校です。)

昨年(2025年)12月末、ナロジチの上空をドローンが頻繁に飛んでいたため、ナロジチ・リツェイではクリスマス・新年会を開催できませんでした。1月になり、気温がマイナス21~23度まで下がったことにより、学校はしばらく休校になりました。さらに変電所の損傷により、一時的に電力供給に問題が起きました。2月6日に授業が再開されましたが、最初の授業が始まってすぐに空襲警報が発令され、同時に停電になりました。そのため約400人の生徒と教師たちは、寒い地下室で数時間を過ごさなければなりませんでした。停電のために、携帯電話の画面の明りだけが頼りでした。

その後、子ども基金が送った「2026年チェルノブイリ救援カレンダー」が届いたという連絡がありました(右下写真、表紙写真)。また生徒たちがチェルノブイリ事故40年記念行事に向けて準備を進めている様子も伝えられてきました。

\*\*\*\*\*

2月12日、ナロジチ・リツェイの生徒会で、今年4月26日に開催するチェルノブイリ事故追悼の行事についての会議を開きました。私たちが重要だと考えたのは、チェルノブイリ事故の歴史的事実を記録として残すこと、事故処理作業に関わった人々に敬意を表すこと、そして環境安全に対して責任ある態度をもつことについてです。そこではさまざまな年齢層の子どもたちに向けたイベントについて多くの意見が出されました。1年生から4年生の子どもたちを対象に、1986年の出来事をわかりやすく説明をしながら交流会を行うという

案が出されました。中学生向けにはテーマ別のプレゼンテーション、クイズ形式のコンクールの開催が計画されています。高校生は、チェルノブイリ事故の環境的影響について議論する円卓会議に参加します。また、校内のホールにイベントを象徴する全校規模の追悼作品を展示することについても多く話し合われました。たとえば、象徴的なキャンドルとテーマに沿った素材で構成された「チェルノブイリの鐘」や、プリピャチ市とチェルノブイリ事故の影響に関する情報資料を展示するなどの案が出されました。私たちはシナリオの準備、会場の準備、各クラスの調整、資料の準備、宣伝等の担当を決めました。チェルノブイリ事故を単に過去の出来事として思い出すのではなく、将来の安全に対する一人ひとりの責任としてとらえるべきだと考えます。

生徒会代表：マリア、ニキータ、アンナ、ソフィア、テレザ、ヴェロニカ



## チェルノブイリの歌声 ～みなさまからのメッセージ～

★いつもニュースをお送り下さりありがとうございます。切手がありますのでお送りします。ウクライナに早く平和な日常がもどりますようお願いいたします。(兵庫県 Fさん)

★今年のカレンダーは写真だけでなく、子どもたちの作品を見せてもらって興味深いです。2月の写真で、子どもたちが手にしているのは刺繍かしら？と思ったら、9月の写真で藁細工の作品だとわかりました。手間がかかるものほど出来上がりは素晴らしいですね。木工細工やガラス絵というものもあるのですね。どれも素敵です。「オヴルチ子ども芸術アカデミー」の活動を通して子どもたちも元気になっていくことでしょう。素敵なカレンダーをありがとうございました。(三重県 Nさん)

★チェルノブイリの子どもたちを応援することは、私にも力をくれています。(東京都 Kさん)

★救援活動にささやかながらも参加させていただけることに感謝します。地球上のすべての子どもたちが、不安や恐れ、暴力、飢えから一刻も早く解放されて、愛の中ではぐくまれますようにと祈り続けています。(東京都 Kさん)

★子どもたちの笑顔のために活動をありがとうございます。(福岡県 Uさん)

★毎年カレンダーを購入できることを嬉しく思っています。(東京都 Hさん)

★子どもたちの絵も、藁細工や木工の作品も力作ばかりで感心して見えています。そしてやはり子どもたちの笑顔はいいですね。保養したり色んな活動をするので、子どもたちは心穏やかになれるでしょうね。そういうことが伝わってくる温かなカレンダーだと思います。(兵庫県 Hさん)

★子どもたちの表情も子どもたちが描いた絵も明るくていいですね。希望が伝わってきます。11/4の中日新聞にカレンダーの紹介記事が載っていました。(愛知県 Sさん)

★カレンダーが届きました。子どもたちの作品から純粋さが伝わってきます。将来の夢も素敵です。優しい心を持ち続けてほしいです。(千葉県 Tさん)

★これ以上小さな平和を奪わない世界にできるよう祈ります。(東京都 Kさん)

★割れてしまったガラス絵が直ってよかったですね。少しの力ですがウクライナ支援を致します。戦争下の子どもたちが、ささやかでもすてきなクリスマスを過ごせますように。(埼玉県 Tさん)

★2026年も子ども達の明るい笑顔がつかれますように。(群馬県 Mさん)

他にもメッセージや年賀状をいただいたみなさま、あたたかいお言葉をありがとうございました。  
(事務局)

\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*~\*

●クリスマス献金をいただいた「川和保育園」様からのお手紙の一部をご紹介します。

「川和保育園では12月19日、20日と二日間に渡って子どもたち、保護者、職員全ての人と、主イエス・キリストのお誕生をお祝いするクリスマスの礼拝の時を持つことができました。今年も礼拝の中で、5歳児の子どもたちが生誕劇を行い、小さいクラスの子どもたち、そして保護者にクリスマスの本当の意味を伝えてくれました。

園庭からは小さいクラスの子どもたちが生誕劇の歌を歌う声が聞こえ、心が温くなる日々を送っています。子どもたち一人ひとりが伸び伸びと遊び、色々な自分を感じ、仲間を感じ、共に成長し合いながら豊かな日々を過ごしています。こうしてあたりまえの日々を過ごせる有難さをしみじみと感じ、神様への感謝を改めて感じます。

しかし世界ではあたりまえの幸せを享受できない人もいます。アドヴェントの期間、子どもたちと共にそのことも考えてきました。困っている人たち、苦しんでいる人たちに私たちは何ができるのだろうか。近くの仲間を想うのと同じように遠く離れている人々を想い、今年も子どもたちは家族の人と共に想いを馳せ、少しずつ献金を準備してきました。一人ひとり心のこもった大切なお金をクリスマスに捧げることができましたことを嬉しく思います。

小さな力ですが、少しでもチェルノブイリ子ども基金のみなさまの活動のお手伝いができましたら幸いです。  
2025年12月24日

**2025年度決算報告書**  
【2025年1月1日～12月31日】

収 入	
項 目	金 額
前期繰越募金	8,559,150
救援一般	7,600,762
保養費	632,255
里子支援	4,217,685
ウクライナ緊急支援	956,300
救援キャンペーン	
2025年2月絵画展 賛同金	1,000
2025年2月絵画展 会場募金	59,913
ニュースレター購読料・運営費	456,240
預貯金利息	4,484
物販売上	
本・ポストカード・CD・民芸品	17,300
カレンダー2025	355,622
カレンダー2026	1,653,687
<b>小 計</b>	<b>24,514,398</b>
<b>合 計</b>	<b>24,514,398</b>

支 出	
項 目	金 額
救援	
医薬品・物品*1	0
保養費	4,657,820
団体運営費*2	963,392
里子支援	3,744,111
緊急支援*3	682,680
ウクライナ緊急支援	266,772
派遣費	0
送金・為替手数料	63,440
福島の子どもへの支援	
未来の福島こども基金	162,329
事務運営費	
国際 Tel・Fax	0
国内 Tel・Fax	88,327
印刷・コピー費	31,550
ニュースほか発送費	277,007
人件費	2,096,688
交通費	154,732
事務消耗品費:	104,587
事務所費	778,370
広告・宣伝費	0
資料・会議費	0
国内振込手数料	17,380
物販仕入	
本・ポストカード・CD・民芸品	5,600
カレンダー2026	464,453
<b>小 計</b>	<b>14,559,238</b>
<b>次期繰越金</b>	<b>9,955,160</b>
<b>合 計</b>	<b>24,514,398</b>

\*1 2025年12月下旬にウクライナの内分泌研究所への医薬品代1,582,900円の送金手続きを行いました。銀行の決済は年をまたぎ2026年1月5日でしたので上記報告書に反映されていません。

\*2 ウクライナNGOへの2026年分の支援金送金。ペラルーシNGOへの支援金の送金は2026年3月に行う予定です。

\*3 里親支援を受けていな困窮家庭の病気の子どもへの支援です。

※カレンダーの収入・支出とも次年度にまたがります。  
2025年度版のカレンダー収益は970,379円でした。

2025年度の会計監査の結果、適正であることを認めます。

2026年1月31日

会計監査

監事 鈴木 由利子  
監事 清水 玲子



# 募金・救援状況



## ●募金状況 2025年10月～2026年1月 (単位：円)

	10月	11月	12月	2026年1月
募金件数	183	271	181	52
救援寄付金	2,028,743	576,750	1,310,598	167,072
保養費	80,100	109,000	47,100	22,600
里子支援	204,935	8,230	8,230	101,870
ウクライナ支援	41,000	112,300	60,500	7,000
ニュース購読費	46,000	50,249	46,000	15,751
合計	2,400,778	856,529	1,472,428	314,293

\*10月：「生活協同組合 パルシステム東京」様より2025年度平和カンパ、1,436,835円のご寄付をいただきました。

\*その他、切手のご寄付をいただきました。ありがとうございます。

## ●救援状況 2025年10月～2026年1月 (単位：円)

<ウクライナ>	
◎チェルノブイリの子どもの生存	
里子支援 (半年分×3人)	142,461
緊急支援 (半年分×4人)	189,948
運営費：通信費、家賃、スタッフ給料×3人 (2025年1月～12月分)	601,502
◎内分泌研究所	
医薬品購入費用	1,582,900
◎オヴルチ子ども芸術アカデミー	
子どもたちへのクリスマスプレゼント代	132,762

\*ベラルーシの里子・緊急支援金、団体運営費の送金は2026年3月を予定しています。

※子ども基金が支援したのものにつきましては、現地団体が購入後、領収書と写真を含めた報告を送ってまいります。

## ♥ 団体名一覧 ♥

(順不同・敬称略)

紙面の都合上個人名は省略させていただきます。ご寄付をいただいたみなさまに心よりお礼を申し上げます。

【10月】(有)鈴健モーター、(有)久保明事務所、盆栽のまち法律事務所、(株)桜井書店、(医)武田医院、日本ウクライナ文化交流協会、(株)アウレオ

【11月】川崎市職員労働組合、民宿夢民村、川和保育園父母の会、(特非)WE21 ジャパンおだわら、ストップ・ザ・もんじゅ事務局

【12月】日本基督教団奥中山教会、日本基督教団溝ノ口教会、NPO法人スペースゆう・ともの会、プーの森、日本キリスト教会横浜桐畑教会、日本基督教団代々木上原教会ガラリーヤ会、未来の福島こども基金、ストッププルトニウム神奈川連絡会、川和保育園、(有)ゆう環境デザイン計画、恵泉女学園中学・高等学校宗教部、松山古町教会 C・S、東京土建一般労働組合目黒支部

【2026年1月】友愛富士見保育園、フォークダンスを楽しむ会

### ★2026年チェルノブイリ救援カレンダー★ 残り僅かです！

お買い忘れの方、ぜひ3月からお使いください。1部1000円・送料9部まで200円、10部以上300円)。収益は次号ニュースレターで報告します。

### ★募金振込口座のご案内★

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。同封の振込用紙によるお振込のほか、以下の口座へ直接お振り込みいただけますので、ご都合のよい方法をご利用ください。※振込用紙以外でお振込の場合は、お名前、金額、ご寄付の内容のご連絡をお願いいたします。

(1)郵便振替口座 00160-4-98316 口座名 チェルノブイリ子ども基金

(2)ゆうちょ銀行口座 店番 019 店名 〇一九店(ゼロイチキョウ店)

預金種目 当座0098316 受取人名 チェルノブイリコドモキケン

(3)三菱UFJ銀行 支店名(番号):新宿中央支店(469)

口座番号:普通 1688367 口座名:チェルノブイリ子ども基金



2026年カレンダー 3月  
ウクライナ「オヴルチ子ども芸術アカデミー」教室の子どもたちの様子

# 事務局から

## ◆第15回江古田映画祭「福島を忘れない」

2/28(土)～3/11(水) 会場:武蔵大学、ギャラー古藤  
(東京都練馬区) 問 Tel. 03-3948-5328

【関東1都3県にお住まいの方には上記イベントチラシを同封しています。それ以外の地域にお住まいの方でご関心がありましたら、お手数ですが直接お問い合わせ下さい。】

◆書籍『予防接種のえらび方と病気にならない育児法』黒部信一著(現代書館)「未来の福島子ども基金」代表「チェルノブイリ子ども基金」顧問、総合小児科医の黒部さんの新刊です。書店等でお手に取ってご覧ください。

## ■「基金ニュースレター」について

ご寄付をくださった方に、用途の報告としてニュースレターをお送りしています。ニュース購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

※ニュースレターは子ども基金のHPでもご覧いただけます。今後、郵送がご不要の方は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。

※発送経費を節約し、なるべく多くのお金を子どもたちの保養や医薬品に活用したいと思っております。長期間、ご寄付等お振込みのない場合は発送を停止させていただきます。

## ■ボランティア募集

ニュース発送作業(年3回:2・6・10月)お手伝いいただける方を募集します。次回は、2026年6月中旬の予定です。場所:東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10階)

※参加ご希望の方は、前日までにメールかお電話でご連絡ください。電話は平日午前10時～午後5時。留守の場合は伝言をお願いします。

## ★編集後記★

今度の3月11日で福島原発事故から15年、4月26日にはチェルノブイリ原発事故から40年を迎えます。大切な「節目の日」ではありますが、そこで当事者として生きる方々にとっては、「事故」は過ぎ去った出来事ではあ

※ ご協力いただいているみなさまへ ※  
振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

## すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便振込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

## 払込取扱票のお名前・ご住所は楷書で ご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

## 「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で受領確認の連絡をご希望の方に、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

## 「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収証がご入り用の際は振込用紙の該当欄に印をつけてください。

りません。ウクライナの汚染地ナロジチの子どもたちは言います。「チェルノブイリ事故を単に過去の出来事として思い出すのではなく、将来の安全に対する一人ひとりの責任としてとらえるべき」と。遠い未来を見据えて我が事として問題を考えようとする姿勢を、今一度見習わなければと感じました。2月24日は、ロシア軍のウクライナへの全面侵攻から4年、かの地で必死に耐え日々を生きる人々に一刻も早い平和を切に願います。(事務局)

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年3回(2・6・10月)発行●

住所 〒177-0041 東京都練馬区石神井町3-16-15-408

Tel/Fax 03-6767-8808

E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

◇ウェブサイト <http://ccfj.la.coocan.jp/>

◇事務局ブログ <https://cherno1986.hateblo.jp/>



※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。